

ハーモニー

Harmony

第54号 2010年12月22日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第18回学術集会(大阪)の報告	1
第18回学術集会を終えて	1
第18回学術集会アンケート結果	2
参加者の声	2
プレコングレス実施報告:「養護教諭の専門領域に 関する用語の解説集」の検討と交流 パート4	3
学術集会における「養護教諭の職業倫理に関する 規定の検討委員会」最終報告について	4
トピックス:新たな教職員定数改善計画(案)について	4

報告:科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」 に関する意見募集について	5
私の県の「ここが特色」⑩	6
「私の実践と研究」リレー・レポート⑧	6
2010年度総会報告(速報)	7
2011年度研究助成金研究の選定報告	7
第18回学術集会「投稿奨励研究」選定報告	7
投稿原稿募集	8
事務局より・編集後記	8

第18回学術集会(大阪)の報告

学会長 楠本久美子(四天王寺大学)

「今、改めて養護教諭の教育を問う」をメインテーマに難波・高津の宮跡において第18回学術集会を開催いたしました。会場の上町台地は、皆様方をお迎えするのにふさわしい文化的、学術的な街で、いにしえの時代から、政治文化の中心地として、また中世には学術の地として役割を担ってきた歴史があります。雨中に関わらず、約380名の方がご参加くださり、お礼申し上げます。また、学術集会の準備から開催までの期間、後藤ひとみ理事長はじめ、会員の皆様にご協力を賜りましたことを感謝申し上げます。

学術集会は、学会長基調講演「これからの養護教諭養成教育を考える」、特別講演「仏教と教育」、教育講演「今 学校保健に求められる健康教育」、シンポジウム「今、求められる養護教諭の教育」と養護教諭の教育を多面的にとらえ、考える機会としました。

ワークショップの「アレルギーのある子どもへの対応」「十代の子どもを取り巻く生と性」では、養護教諭の実践面での議論が活発に交わされていました。一般演題は口演発表25席、ポスター発表16席で、熱心に討議くださいました。どの会場においても、もっとも時間もほしいとおっしゃる声をいただきました。熱心に討論されたことは、実りある成果であったと実行委員一同喜んでおります。なお、開催に当たり、入念な準備をして参ったつもりですが、至らぬこともあったことと思います。ご寛容ください。

今後の学会の発展と第19回学術集会のご成功をお祈りいたします。

第18回学術集会を終えて

事務局長 大川尚子(関西福祉科学大学)

会員の皆様のご協力をおもちまして、第18回学術集会を終えることができました。心よりお礼申し上げます。今回の学術集会は、今までの「養護教諭の実践」の研究を踏まえ、メインテーマをもとに養成機関の教育、行政の研修、養護教諭自身の研鑽について考えを深めることができたと願い、講演やシンポジウムを企画しました。

学術集会の運営に当たっては、大阪の養成大学の経験豊富な先生方と大阪府・大阪市・堺市の養護教諭部会の先生方で構成された実行委員会を組織し、何回もの実行委員会を経て、何とか無事学会を終えることができました。講演講師、シンポジスト、座長等をお引き受けくださった先生方、実行委員をお引き受けくださった先生方、そして学会に参加して下さったすべての皆様に感謝申し上げます。

また、当日スタッフとして、四天王寺大学、大阪教育大学、関西女子短期大学、関西福祉科学大学の学生たちが運営に参加し手伝いを経験させていただきました。至らない点多かったと思いますが、参加者の皆様から「学生スタッフの対応がよかった」「学生の笑顔が素敵でした」とのお褒めの言葉をたくさんいただきました。学生からも「学会に参加できてとても刺激になった」「養護教諭をめざす他の大学の学生と知り合いになることができてよかった」など、よい経験になったという感想が寄せられました。今回の学会では、畿央大学、大阪教育大学、四天王寺大学の授業やゼミの一環として多くの学生さんが集まってくれましたので、学生のための企画を考えることもできればよかったなと思いました。

最後に、理事長・学会長をはじめとする会員の先生方の励ましと温かいご支援に心から感謝をいたします。第19回学術集会のご成功を願い、学術集会の報告いたします。

第18回学術集会アンケート結果

日本養護教諭教育学会第18回学術集会を無事に開催することができ、本誌にて会員の皆様にご報告できますことを大変嬉しく思います。学術集会の際にいただきました貴重なご意見をまとめましたのでご報告させていただきます。 実行委員会

【回答者数】71名

うちわけ:会員(53)、会員外(5)、学生(11)、不明(2)

1. 学術集会開催を知った情報源(複数回答)

機関誌「ハーモニー」(34)、日本養護教諭教育学会誌(33)、学会のホームページ(11)、大学より(10)、前回の学術集会でのチラシ(2)、教育委員会からの案内(2)、「健」(2)、「健康教室」(2)、学会長からの案内(1)、養護教諭研究会(1)、日本健康相談活動学会でのチラシ(1)、「学校保健研究」(1)、「心とからだの健康」(1)、友人のすすめ(1)

2. 興味を持った内容(複数回答)

ワークショップ(33)、ランチョンセミナー(31)、一般演題(口演)(26)、シンポジウム(17)、教育講演(16)、一般演題(口演示説:ポスターセッション)(14)、特別講演(12)、学会助成研究発表(9)、学会活動報告(7)、学会長基調講演(5)

3. 運営に関する感想・意見

①会場へのアクセス

大変良い(20)、良い(39)、ふつう(11)、良くない(0)

②会場の広さ

ちょうど良い(50)、広すぎる(1)、狭すぎる(17)

③会場の設備

今回の設備で十分(26)、改善すべき点がある(16)

ふつう(11)、良くない(4)、非常に良くない(0)

④学会日程

適当(63)、もっと短縮すべき(3)、もっと長くすべき(3)

4. 次年度の学会に希望すること

「学会のHPにプログラムを掲載してほしい」「会場へのアクセスの良さ」「教育講演の時間をもう少し長く設定してほしい」

「『養護教諭の倫理綱領』の完成が楽しみ(3)」等の要望がありました。

アンケートにご協力いただきました方々にお礼を申し上げます。皆様からの貴重なご意見・ご要望は、第19回学術集会の実行委員会へ申し送りさせていただきます。



参加者の声

第18回学術集会に参加して

市川恭平(名古屋市立西養護学校)

今年度から、晴れて念願の養護教諭としての道を歩き始めました。その勢いで本学会にも加入させていただき初めて学術集会というものにも参加してみようと大阪の地を踏みました。

私は、丸二日とさらに懇親会まで参加させていただきましたが、参加者みなさんから伝わってくる「養護教諭」という職に対する熱意や、人と人とのつながりの温かさを感じることができました。初日のシンポジウムでは、養成・採用・現職各段階の先生方から「これからの養護教諭」への思いを聞くという貴重な場面に立ち会い、また懇親会では、全国各地の養護教諭や研究者の方たちとの交流を深めることができました。そして二日目には、心地よい緊張感の中、多くの先生のすばらしい研究発表と熱い議論に参加することができました。

普段の学校生活で「養護教諭」について考えていると、それは当然個人プレーになるのですが、本学術集会に参加して、全国津々浦々の先生方と「養護教諭」というキーワード一つで真剣に議論することができ、不思議とチームプレーをしているような安心感と高揚感に包まれました。

今回、学術集会に参加するという、自分の中では大きな一歩を踏み出すことができました。最新の知見もさることながら、新たな出会いも得ることができましたので、これをきっかけにして積極的に参加していきたいと思えます。

初めての口頭発表を終えて……

千日 由美子(川崎医療福祉大学医療福祉学研究所)

私が、初めて日本養護教諭教育学会に参加したのは、2年前です。2年前は傍聴者としての参加で、たくさんの養護教諭や養護教諭の教育に関わる方が全国で活躍されているという印象を受けました。その時は、まさか自分が発表者として、学会に参加するとは思っていませんでした。

今回の発表のテーマは「高校生の自己の排卵に関する認識」で、日々の保健室での生徒とのやりとりから感じていることを調査してまとめました。文章にまとめることで、「何となく」捉えていた生徒像を、「実態」として捉えることができ、その実態を今後に生かしていきたいと思っています。

自分がまとめたことが抄録集として形になり、その抄録集を手にしたときの感動は忘れられません。文章化することで、自分の日々の業務を振り返り、課題を明確にし、目的意識を持って日々の業務につなげることができると思えます。また、発表では、いろいろな視点から質問や助言等をいただくことができ、とても貴重な経験をしました。さらに、様々な方の発表やシンポジウムは新しい発見や、今後に生かしていきたい内容で、他の参加者と話をする機会があったことも勉強になりました。

今回の発表は自分だけの力ではなく、周りの方々の

ご指導や助言等たくさんの協力があってこそだと思っています。今後、自分だけでなく、養護教諭や養護教諭の教育に関わる方、そして生徒に返していただけるような研究や実践を続けていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

◆◆◆プレコンgress実施報告◆◆◆
「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」の検討と交流 パート4

学会活動委員会

1. 期日：平成22年10月10日 9:30～11:00
2. 場所：大阪府教育会館たかつガーデン
3. 開催の趣旨

今回のプレコンgressの企画の趣旨は、昨年実施したプレコンgress「養護教諭の専門用語解説集の検討パート3」及び過日実施した全会員への調査結果に基づき、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第一版〉」の改訂の参考資料とすることとした。

4. 参加者

養護教諭養成関係教員19名、現職養護教諭17名、学生8名及びその他1名の計45名であった。

5. プレコンgressの流れ

6名程度の班編制とし、各班で世話人と記録者、発表者を決定し、次の流れで意見交換を行った。

- ①理事長、担当常任理事の趣旨説明
- ②時間配分及び進め方の確認と進行 担当常任理事
- ③各グループ内での参加者自己紹介
- ④グループ討議（司会者・記録者・発表者決定）
- ⑤意見交換 各グループの発表者による検討結果発表
- ⑥まとめ 担当常任理事

6. 意見交換の結果

各班の意見交換で取り上げられた課題と主な内容は、表1のとおりである。

表1 班ごとの検討内容

検討テーマ	班構成	見直しの要点
1 健康相談活動と健康相談	養：1 教：2 学：2	・養護教諭が行う健康相談活動は、専門職としての特質や機能についてより丁寧に述べる
2 保健指導	養：2 教：2 学：3	・保健指導の解説が必要（領域、対象、計画性、指導法など）
3 学校保健経営	養：1 教：3 学：2	・保健室経営との区別の明確化 ・戦略的ニュアンスの盛り込み ・養護教諭の位置づけの明確化
4 保健指導	養：2 教：2 学：2	・保健室だけで行うものではないことを明記する必要がある ・個別指導、日常の指導も含まれることを記載して欲しい
5 健康相談活動	養：4 教：2	・健康相談との違いの明確化が必要 ・健康相談に統一された文科省の意図を確認したい
6 健康相談活動と健康相談	養：1 教：5	・養護教諭が行う健康相談の定義づけを行う必要がある ・どのようなキーワードとするかの共通理解が必要
7 健康相談活動	養：4 教：3	・健康相談との違いの明確化 ・養護教諭の専門性を訴えるネーミングなど用語の見直しが出来ないか

養：現職養護教諭 教：養護教諭養成関係教員 学：学生

7. プレコンgressのアンケート結果

プレコンgress後のアンケートの結果は次の通りであった。

1) 自由記述の意見・感想、

【現職養護教諭から】

○様々な意見を聞いて良かった(4) ○保健指導の有り様がはっきりした○養護教諭の職務の根拠を正しく把握し、他の教職員へ伝える必要性を強く感じたなど。

【養護教諭養成関係教員から】

○判決、判例とポイント及び解釈を入れるとよい○異なる立場との交流は刺激になった○学生の参加が多く、活発に意見が出たことに感激した○より多くの養護教諭が活用できるよう啓発してほしい○内容再検討の上、用語集を出版、市販して欲しい(2) ○今まで使用していた言葉を討議で深化させることができた 等。

2) プレコンgressへの要望テーマについて

【現職養護教諭】

○養護診断 ○養護教諭固有の用語 など。

【養護教諭養成関係教員】

○倫理綱領及び関連用語、英語表記の見直し
○キャリア、コーディネーションについて
○養護診断と法律、学校看護○養護教諭の将来像
○現場と養成が話し合える環境を維持してほしい など。

【学生】

○養護教諭と関係者との連携 ○心の健康問題を持つ子どもに対する望ましい対応 など。

3) プレコンgressの運営等について

進行（時間配分）については「適切であった」が40人(95%)、資料については「適切であった」が100%であった。少数意見ではあるが、「学生の養成、勉強法など授業者同士のディスカッションも取り上げてほしい。今後はグループ発表後のディスカッションの時間を設けるとよい。」などがあった。

8. まとめ

前回のプレコンgressの成果やアンケート結果を踏まえた企画とし、今回も班別の意見交換を行った結果、学生の参加もあり議論が深まり、貴重な問題提起がなされた。各班の検討テーマとなった用語については定義の見直しが指摘され、背景には学校保健安全法等の法改正があることが確認された。また、前回に引き続き、改訂のための委員会の立ち上げや用語集冊子の販売についての提案・要望も出された。

そこで、今回のプレコンgressの討議内容や問題提起等を踏まえ、学会員等の期待に応える用語集改訂作成に向け進めていく予定である。

最後になりましたが、今回活発な意見交換ができたことに感謝します。



学術集会における「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」最終報告について

吉田あや子（学会活動担当理事）

第18回学術集会の2日目（10月10日（日）14:20～15:00）、大阪府教育会館たかつガーデン8階たかつ（第1会場）において、三木とみ子学会活動担当常任理事の座長で、「養護教諭の倫理綱領（試案）に関する報告」と題した「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」の最終報告が行われました。

前半は、鎌田尚子委員長から、養護教諭の倫理綱領（試案）の提示、その必要性と意義・目的、三ヶ年の検討経過、学会員へのアンケート結果のまとめ等について報告があり、後半はフロアとの活発な質疑応答がありました。

本検討委員会では、倫理綱領は養護教諭の実践及び養成教育の向上を図るために、養護教諭自身がよりよく行動するモラルとして内発的に高めていくものであると位置づけています。倫理綱領に対する学会員の認識は、これまでのプレコンgres等の活動により深まってきている状況（アンケート結果：「倫理綱領が必要」2008年64.0%、2010年82.6%、「養護教諭を目指す学生に教育は必要」89.1%）があります。

15条にわたる倫理綱領（試案）については、目的や作成に至った経緯と、プレコンgresやアンケート等で捉えた学会員の意見を反映して改訂した試案が提示され、まとめとして次のような内容が報告されました。

- ①倫理綱領は社会に対する専門職としての声明文であり、養護教諭を養成する大学教育の「要」として、大学人が学生や保護者に説明し、学生の学習目標の基本的な考え方の基盤になるものとして必要である。
- ②養護教諭研究者の倫理ガイドライン作成を要望する声があったことから、研究者の倫理規定を学会として作成するためにも基礎となる養護教諭の倫理綱領が早急に必要である。
- ③職務上ジレンマに悩むことは専門性の明確化と学問の複雑多様化の進歩であるが、人間を対象とする職務である以上、価値の対立（相反）において天秤のバランスをどのようにとるかの拠り所として倫理綱領が必要であり、活用され役立つことが期待できる。

本検討委員会は三ヶ年の時限委員会であり、委員の任期は今年度で終了しますが、学会員の意見等を踏まえて検討した内容は学会誌に掲載される予定です。本学会において、この倫理綱領（試案）が養護教諭の倫理綱領として早急に決議されることを検討委員会の一人として切望しています。



トピックス

新たな教職員定数改善計画（案）について

田嶋八千代（岡山大学）

本年8月、文部科学省より新・公立義務教育諸学校及び新・公立高等学校等における教職員定数の改善案が10年ぶりに示された。今回の教職員定数改善は、「『強い人材』の実現は、成長の原動力としての未来への投資である。世界最高水準の教育力を目指し、新学習指導要領の円滑な実施や教員が子どもと向き合う時間の確保による質の高い教育の実現が急務である。」ことをねらいとしている。この教職員配置の改善は、平成26年度から30年度までの5カ年計画で、改善総数は40,000人であり、養護教諭は義務教育諸学校で1,600人、高等学校等で220人〔全180定40〕である。改善の目的・内容として、「児童生徒の心身両面の支援」とされているが、複数配置の促進が主体であると考えられる。教員の定数等の改善は、公立義務教育諸学校は昭和34年～38年を第一次改善として、公立高等学校は昭和37年～41年を第一次改善として現在まで進められてきたものである。養護教諭の定数改善に関しては、義務教育諸学校（第7次）・高等学校（第6次）の平成13年～17年における養護教諭の複数配置の促進等により改善されてきた経緯がある。

今回の定数改善の背景として、まず初めに、中央教育審議会答申（平成20年1月）にて示されたように、子どもの健康を取り巻く状況として、「……生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性の問題行動や薬物乱用、感染症など……」を新たな現代的な健康課題とし、多様化・深刻化した健康課題解決に向けての養護教諭の職務・役割に関する提言がなされたことがあげられる。さらに、学校教育が抱える課題として、生徒指導面の課題の深刻化、障害のある児童生徒や特別な支援を必要とする子どもが顕著な増加傾向にあることも含まれる。

次に、近年の保健室来室状況や児童生徒への対応時間の増加、保健室登校の増加等があげられる。平成13年度に実施した「保健室利用状況に関する調査」と平成18年度の調査結果を比較すると、子どもの心身の健康課題が多様化し、児童生徒の保健室利用者の増加が見られるとともに、全校種で児童生徒1回あたりの対応時間の増加や保健室登校の増加などが報告されている。

最後に、養護教諭の仕事量の増加があげられる。心身の健康課題の多様化・深刻化から、保健室来室者の増加、子どもへの対応時間の増加等により1日の勤務時間内では対応しきれない現状が伺える。とりわけ、子どもへの直接のかかわりではない事務的な業務の負担も大きい状況が明らかとなっている。教員の1ヶ月当たりの残業時間は平成18年度調査で休日も含めて

約42時間(昭和41年度調査の約8時間から大幅増加)とされており、「教員が行うべき仕事が多すぎると感じている」という実態が報告されている。

養護教諭は学校保健活動の中核的な役割を果たし、子どもの現代的な健康課題の対応に当たり、関係機関・関係者との連携を図る上でコーディネーターの役割を担う必要があると中央教育審議会答申で提言されている。さらに学校保健活動のセンター的役割を果たしている保健室経営の充実、養護教諭の専門性を生かした保健教育の充実等についてもあげている。この答申を踏まえて法改正がなされ、学校保健安全法が制定されたわけであるが、養護教諭を中心とした保健指導の充実が条文に規定され、関係機関等との連携による児童生徒等の保健管理の充実や学校環境衛生基準の制定等の整備がなされた。これ以外にも、学校安全に関する管理についても法整備がなされ、新たに養護教諭の職務に位置付けられ報告されている。これらの状況を踏まえ、心身の健康課題を抱えた子ども一人ひとりに向き合い、適切な対応を行うために、また養護教諭の充実のために、複数配置の推進を図る必要がある。

報告 *****

科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」に関する意見募集について

理事長 後藤ひとみ

現在、独立行政法人日本学術振興会では、文部科学省の科学技術・学術審議会からの依頼を受け、平成25年度公募から適用する「系・分野・分科・細目表」の改正にむけた検討を行っています。検討結果は同審議会に提出され、そこでの審議を受けて最終的な決定となるようですが、日本学術振興会は改正にむけた検討に資するため、HPを通して幅広く意見を受け付けるとして、みだしの意見募集を平成22年8月27日(金)を提出期限に行いました。

募集要領には、「現在の学術研究の動向を踏まえつつ、5年後10年後の学術研究の動向を見据えて、既存の学問分野に収まらない新たな分野があるなど、現行の『系・分野・分科・細目表』で改善を要する点やその具体的な改善策について、その理由を示しつつ簡潔に記述してください」などと書かれていました。

そこで、7月25日(日)開催の理事会で本学会からの意見提出を行うことを確認し、その内容は理事長が検討することにしました。メールで語句修正などの意見をいただき、各理事の了解を得て提出した内容(抜粋)についてご報告致します。

<既存の「系・分野・分科・細目表」で改善を要する点等>

本学会は養護教諭という職名を付した唯一の学術団体であることから、会員数の増加に伴って養護教諭教育をテーマとした研究が年々活発になっている。ところが、「科学研究費に養護教諭にかかわるテーマで

募したくても該当する細目が見あたらない。細目ごとのキーワードに養護教諭の内容がない。」などの現状がある。今後も研究成果を公表し検証し共有する場として、本学会の役割はますます重要になると思うが、各々の研究を充実させるためには科学研究費の助成が大きな意味を持つことは言うまでもない。何卒、本学会の研究分野に相応する養護教諭教育に関する新たな細目を立てていただくこと、あるいはそれに準じる措置として既存の細目において適するキーワードを明示することについてご検討下さい。

<参考データ等>

KAKEN(科学研究費補助金データベース)において、養護教諭をキーワードとした検索を行い、これまでの採択課題の研究分野を分析した結果について述べる。

- ①1990年度以降に採択された研究のうち、「研究課題」に養護教諭という言葉があるもの、「研究対象」の中に養護教諭が含まれているもの、「研究者」が養護教諭であるものは計311件であった。
- ②このうちで、「研究課題」に養護教諭という言葉がある研究の「研究分野」について、採択された初年度で整理した結果が下記である。なお、1990年～1992年の採択は0件であったので掲載していない。
- ③「教育学」等の分野での採択が散見されるが、その半数は教育学研究者であり、養護教諭教育の研究者ではない。「心理学」等での採択は研究課題に心や適応などの語句があるものである。2004年度以前は「保健体育」で採択される傾向があった。近年は、「地域・老年看護学」での採択が続いているが、これらの研究者は看護学研究者である。

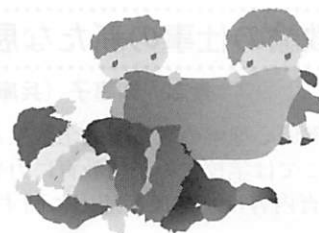
(以上の内容は、添付した表に基づく)

<具体的な改善策>

参考データに示すとおり、これまで「養護教諭」に関する研究は様々な分野で申請され採択されてきた。これは、固有の分野や核となる分野が明確ではないゆえの結果と言える。また、近年は「地域・老年看護学」での採択がなされているが、養護教諭は学校教育法に規定されている教育職員であることをふまえると、教師としての専門性について審査できる研究者が指名されるような分野の設定や、申請者にわかりやすいキーワードの提示が必要である。よって、具体的な改善策として、下記のご検討をお願い致したい。

- 人文社会系「社会科学」分野の分科「教育学」の中に、細目として「養護教諭教育」あるいは、これに準じた表現として「養護学・養護教育学」を設ける。
- 総合・新領域系「総合領域」分野の中に、分科として「養護教諭教育」あるいは、これに準じた表現として「養護学・養護教育学」を設ける。

以上



設立 60 周年を迎えた 北海道養護教員会の活動

清水 悦子 (北海道養護教員会長)

北海道養護教員会は、「養護教諭の専門性を見つめ直し、職務の原点をさぐると共に、会員相互の親睦をはかる」を重点目標として、今年度会員数 1,478 名で全道 15 支部に分かれ活動を行っています。

本会は昭和 25 年 2 月に設立し、今年度 60 周年を迎えました。また、会の中心的事業である研究大会では、会員総意のもと、各支部一年おきに分科会発表を行うとともに、輪番で主管して開催し、今年度は記念の 40 回大会となりました。開会式・記念式典に先駆け、「あゆみ」を上映し会の歴史を映像で振り返りましたが、改めて会の設立にご苦勞された諸先輩に感謝するとともに、懐かしい映像に、参会者一同感激の幕開けとなりました。研究大会は下記の内容で、大変充実した研究大会となりました。

主管：札幌小中支部 期日：8 月 3・4 日

開催場所 札幌プリンスホテル・資生館小学校

研究主題 「21 世紀を担う児童生徒の健やかな心身の発達をめざして」

記念講演 「脳を育む」 講師 東北大学 川島隆太氏

記念発表 「これからの時代に求められる養護教諭の役割」

I 部 調査研究発表 保健室利用状況について

II 部 養護教諭の今 (DVD 映像上映)

III 部 新たな時代における養護教諭像を考える
講師 女子栄養大学 三木とみ子氏

分科会 9 分科会

研究誌 研究集録・研究大会報告集

記念誌 60 周年記念誌「養護」

※大会 1 日目終了後、設立 60 周年記念祝賀会実施

本会のその他の事業としては、会誌「養護」を年 1 回、たより「養護」を年 3 回発行しています。また、総会と年 2 回の支部長研修会を行い、議事終了後には各支部での研修会の様子、講演内容や講師の紹介など情報交換を行い、各支部での活動の参考としています。

北海道は大変広域であり、市町村合併による学校統廃合などで会員数も減少傾向にあり、検討課題も多々ありますが、実践交流の場としての貴重な研究大会を継続開催するとともに、会員一人一人が力を合わせて、さらなる発展を目指していきたいと思ひます。

私の実践と研究」リレー・レポート⑧

養護教諭の仕事の新たな展開

貴志 知恵子 (兵庫教育大学)

現在、発達健康心理学の教室で大学院生として学んでいます。ここでは学校での予防教育に力を注いでいます。その教育内容は、健康や適応に関するもので、

いじめ、不登校、生活習慣、肥満ややせ、抑うつ、性関連問題、たばこを含む薬物の問題など多岐にわたっています。予防教育は、健康教育の新たな展開であり保健学や心理学を中心とした理論や技法を適用した実践的試みです。この教育は、健康に及ぼす感情や行動を健全な方向に動かすために、背景理論や先行研究を洗い出し、様々な教育手法を駆使して予防的介入をし、科学的な教育効果評価をおこなうという方法を採用しています。これらの理論や手法は養護教諭の仕事を実行していくうえでとても参考になります。

これまで、高等学校の養護教諭として、子ども達の身体や心の健康問題に向き合ってきました。例えば、抑うつといった精神的健康問題については、関係する教職員で様々な機関と連携し、本人や保護者を含めた問題に対処してきました。当の生徒達からの声は「クラスのみんなには自分のことを言わないで欲しい。」「親に心配を掛けたくない。」等々の不安や自分を責める言葉が多く聞かれました。そのような状態が長く続くと生徒はますますクラスに復帰しにくくなり、勇気を出してたまたま教室に顔を出しても、周りの冷たい空気を敏感に感じてしまうという経験をしてきました。

これらの生徒の支援を通して、生徒の学校不適応の問題は、生徒が所属するクラスの問題、学校全体の問題であり、クラスや学校全体への介入なくして効果がないのではと思うようになってきました。子どもたちの心の健康や学校不適応の問題は、対人関係に起因するという多くの知見があります。少なくとも入学時や新学年のスタート時には一人ひとりの子どもたちが、気持ちを新たにそのクラス、その学校でやっていこうという思いがあったことでしょう。

そのような中で、多欠席や不適応の問題が発生した時に、本人や家庭の問題に焦点をあてるよりも、全員の生徒が揃った楽しいクラス、皆が話しやすいクラスなどのポジティブな側面に焦点をあててユニバーサル教育として取り組むことが大切であると感じています。

また、これまでの実践の効果評価においては経験や勘に頼ることが多かったのが実情です。養護教諭の実践を次に繋げていくために隣接分野の知見にも目を向けながら、エビデンスや実証的データに基づいた、実践の評価をおこなうことの必要性を痛感しています。

そのことは、保健指導においても、例えば健康的な生活習慣をめざす場合、疾病や人の弱さなど困難や弱い部分の知識を伝達し問題の矯正に視点をあてるよりも、良いこと、獲得できるものや成長する力に焦点をあてる方が、子どもたちの感情を動かし、行動変容につながるのではないかと考えるようになりました。つまり、何が悪いかを明らかにするばかりでなく、正しいものや良いものを作り出すことも大切です。

養護教諭の仕事は、心や身体の健康という切り口から学校教育がめざす「生きる力」である主体的判断力や問題解決能力、自律性や対人関係性、自他尊重の心を育成し自己実現をはかる支援をするということにつながるとも重要でやりがいのある仕事だと思ひます。養護教諭の執務が、学校教育の目標にどのよう

にかかわっているかを常に意識すること、そのためには日々の実践が、どのようなステップで教育目標に結びつくのかを学校保健計画や保健室経営計画に示し、スモールステップごとに評価し確認することが求められるのではないのでしょうか。

2010年度総会報告（速報）

山崎隆恵（総務担当常任理事）

今年度の総会は、第18回学術集会（大阪府教育会館たかつガーデン）の2日目13時10分～14時に会員175名（含む委任状82名）の出席により、楠本久美子学会長と遠藤伸子会員の議長のもとで開催されました。以下に、審議・承認された議案の概略を報告します。

2009年度事業報告、2009年度決算・監査報告が原案通りに承認されました。2010年度事業経過報告では、学会活動委員会の事業として、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第一版＞の改訂に向けた活動を進めていること、「養護教諭の職業倫理に関する検討委員会」による研究成果のまとめを行っていること、学会誌の年2回発刊に向けた準備を進めていること、独立行政法人日本学術振興会が2010年8月27日までの期限で行った「科学研究費補助金『系・分野・分科・細目表』に関する意見募集」に対して、養護教諭や養護教諭教育に関する分野や細目等を明示してほしい旨の要望を行った等を報告しました。

2011年度事業計画の中で、予定どおり選挙年度に合わせて会員名簿を発行すると、数字の上では赤字になることへの懸念が出されました。理事長より、本会の予算は2010年度の執行中に立てるための現象であるため、実際には黒字であることが述べられたが、近い将来会費の値上げが必要となるだろうとの答弁がありました。職業倫理委員会の設置の要望も出され、最終報告の後で検討する旨を説明しました。

学会誌「投稿規程」の改正では、学会誌の発刊を年2回（3月と9月）にすること、原稿の種類に「調査報告」を加えること等が承認されました。「投稿奨励研究の選定方法等」では、推薦時期の変更が承認されました。

2011年度研究助成金対象研究として、新規2件が承認されました。（詳細は、次項の選定報告をご覧ください）

選挙管理委員として、中部ブロックから神戸美絵子会員（愛知みずほ大学短期大学部）、真野初美会員（東郷町立兵庫小学校）、近畿ブロックから高井聡美会員（関西女子短期大学）、平松和枝会員（大阪府立柴島高等学校）が選出されました。

第20回学術集会（2012年）開催地は中部ブロックで、学会長は林典子会員（名古屋学芸大学）に依頼したことを報告しました。

総会の後、第19回学術集会の三木とみ子学会長（女子栄養大学）より、2011年10月8日（土）～9日（日）に女子栄養大学坂戸キャンパスで開催するとの挨拶がありました。

2011年度研究助成金研究の選定報告

高橋香代（学術担当常任理事）

2010年9月10日の締切りで募集した2011年度研究助成金対象研究の選定結果を報告します。

この度の研究助成金対象研究には、会員から5件の応募がありました。選定作業は、2010年10月8日に開催された第2回理事会において、選定基準（2006年度総会承認）に則って行いました。その結果、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の使途が優れている下記の2題を選定しました。

選定された研究課題は、1）「学校保健活動の重要性を学校評価に位置づけるための研究—課題解決型保健室経営計画を基盤として—」（代表者 新開美和子 広島市立基町高等学校）、2）「子どもの自尊感情を高める養護実践の構成に関する研究～北海道における小学生の実態を中心に～」（代表者 照井沙彩 札幌市立八軒西小学校）の2題であり、2010年度総会にて承認をいただきました。

今回の研究助成金対象研究で特筆すべきことは、申請数が5題と着実に増加していることと、採択された研究課題の代表者がともに現職養護教諭であったことです。このことは、研究助成金制度が、現職養護教諭を含む会員の皆様に広く認知されつつあることを示しており、今後益々の発展を期待しています。なお研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び日本養護教諭教育学会誌に発表することが義務づけられています。研究成果につきましては、研究終了後1年以内を目途に公表される予定です。

2012年度研究助成金対象研究の募集も、本年度と同様に行われる予定です。会員の皆様にはご準備をお願いします。

第18回学術集会

「投稿奨励研究」選定報告

高橋香代（学術担当常任理事）

学術集会の一般発表から優れた研究を推薦する「投稿奨励研究」制度は、2009年度総会で制定され、2010年度に開催された第18回学術集会からスタートしました。本制度は、養護教諭教育に関する研究の一層の発展を図ること、とくに現職養護教諭による研究を推進することを目的としています。

第一回投稿奨励研究については、第18回学術集会で会員が発表した一般演題44演題の中から、学術集会学会長、座長、日本養護教諭教育学会役員に依頼して、投稿奨励研究にふさわしい演題を、一人2題以内で推薦いただきました。今回は、2010年10月30日に締め切り11題の推薦がありました。その中から、メールによる理事会で、推薦者の多い投稿奨励研究2題を選定いたしました。その後、発表者に連絡し、投稿奨励研究の趣旨を説明し受諾いただきました。

第一回投稿奨励研究は、一般演題Ⅰ-1「健康相談活動における心理的・社会的アセスメントを重視した支援の有効性に関する一考察」(発表者 池川典子 大阪府立泉北高等支援学校)と、一般演題Ⅱ-5「養護教諭と生徒指導部の連携における現状と課題 第2報-いじめ、暴力行為、性暴力の加害生徒支援を中心に-」(発表者 菊池美奈子 大阪府立園芸高等学校)の2演題です。

いずれも、それぞれの養護実践に基づいた、独自性の高い研究であり、記念すべき第一回投稿奨励研究にふさわしいものでした。今後発表者の皆さまには、日本養護教諭教育学会誌への投稿準備をいただくこととなります。初めての経験で大変だと思いますが、研究活動担当理事としても協力支援をして参りたいと思います。

学会誌第15巻第1号
(2011年9月発刊予定)の
投稿原稿を募集しています!

鈴木裕子(学会誌編集担当常任理事)

本学会誌は、2011年度から年2回(9月、3月)発刊となります。現在、第14巻第1号(2011年3月発刊予定)の編集作業が進行中ですが、引き続き第15巻第1号(2011年9月発刊予定)の投稿原稿を募集しています。

本会の目的である養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成および向上に寄与する活動)に関する研究を歓迎します。

- 投稿資格: 本学会の会員に限ります。
- 原稿の種類: 論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、調査報告、研究ノート、資料、その他です。いずれかを明記してください。他の出版物に既発表または投稿されていないものに限りません。
- 募集期間: 年間を通して受け付けていますが、2011年3月31日(木)までに到着したものを第15巻第1号掲載をめざした論文として受け付けます。査読が終了し受理された論文から掲載しますので、早めに投稿されることをお勧めします。受理までに時間を要する場合には第15巻第2号以降の掲載となることがあります。
- 執筆および投稿方法: 原稿はA4判横書き(40字×24行、10.5ポイント)で作成してください。執筆要領や同封物等の詳細について、学会誌第13巻第1号P.233~238に掲載の投稿規定または学会HPで十分ご確認のうえ、編集委員会事務局へ送付してください。例年、送付先の間違い、規定枚数の超過、文献記載様式の誤りなどが見られますのでご注意ください。
- 原稿は投稿前によく読みなおし、極力修正の必要のない「完成原稿」をお願いします。

※原稿の送付および問合せは、下記編集委員会事務局をお願いします(学会事務局とは異なりますので、ご注意ください)。

<投稿原稿送付先(編集委員会事務局)>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

国士舘大学文学部 鈴木裕子

TEL: 03-5451-8161 (研究室直通)

e-mail: suzukiyu@kokushikan.ac.jp

事務局より

下村淳子(事務局長兼任理事)

☆選挙告示について

別紙のように、次期役員を選出にあたり、理事の選挙(来夏に実施)が告示されました。選挙権は、2010年度の年会費を支払った会員が有します。未払いの方は、会費納入をお願いいたします。

☆住所変更等の届けはお早めに!

来年3月下旬に学会誌第14巻第1号をお届けします。例年、大学院生や大学生の方で新たに就職し転居された方の学会誌が宛先不明となって返送されてきます。

所属先や自宅住所の変更、発送先の変更などがありましたら、まず事務局にご連絡下さい。連絡方法はすでにお送りした学会誌巻末の「会員登録」変更届をご利用の上、FAXでお送り下さい。または同様の内容をEメールでご連絡いただいても構いません。

(JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp)

☆会費納入のお願い

年会費の未納の方に、振り込み用紙を同封しましたのでお早めにお振込み下さい。年会費が2年分滞りますと学会誌の発送を一旦見合わせます。退会届けが出されても、滞納分の会費を全額お支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

編集後記

学会の仕事に携わってみて、養護教諭には、「虫の目」と「鳥の目」の両方が必要だということを実感しています。学校においてはもちろんですが、養護教諭という職を守り、育て、創っていくという部分においてもそうです。これからも思いを共にする会員が増えることを願いながら、新しい年を迎えたいと思います。今年も一年大変お世話になりました。よいお年を!(K)

